

今年30周年を迎えた松田川ダムをキャンバスに、 高圧洗浄機でアートを描く“リバーズ・グラフィティ”プロジェクト 『BRING BACK THE SAMURAI Powered by ケルヒャー』始動

750年前の足利の地に端を発する足利氏供養と市の繁栄祈願する節分鎧年越に共鳴し、
時を超え、侍を現代(いま)に描き出す

4月10日※の公開までは、洗浄スペシャリスト視点で制作過程をSNS上で発信

2026年3月23日

ケルヒャー ジャパン株式会社

清掃機器の世界最大手メーカー、ドイツ・ケルヒャー社の日本法人、ケルヒャー ジャパン株式会社(本社:神奈川県横浜市、代表取締役社長:挽野 元)は、栃木県足利市松田町の松田川ダムが2026年に完成30周年を迎えたことを記念し、2026年3月23日(月)より松田川ダムリバーズグラフィティプロジェクト『BRING BACK THE SAMURAI Powered by ケルヒャー』を始動します。



本プロジェクトでは「時を超え、侍を現代(いま)に描き出す」をテーマに、高圧洗浄機で壁面の汚れ(パティナ)や苔を除去して絵柄を浮かび上がらせる手法「リバーズ・グラフィティ」を採用。広大なダム壁面をキャンバスに見立て、壮大な「侍」の姿を出現させます。この大規模なプロジェクトを手がけるのは、ケルヒャーと共に数多くの作品を生み出してきたアーティスト、クラウス・ダオヴェン氏。同氏が足利・松田川ダムで制作を行うのは2008年以來であり、2026年、30周年を記念する特別なプロジェクトとして再びこの地に戻ってきました。

近年「人間らしさ」の根源を探求する氏の活動と響き合ったのが、足利の伝統行事「節分鎧年越(せつぶんよろいとしこし)」です。足利氏代々の供養と市の繁栄を祈願し、誇り高く街を歩く人々の姿に「人間らしさ」の一端を見出したことがきっかけとなり、ダオヴェン氏が「侍」を描くことに決定しました。

「侍」という言葉の語源は、大切な人に寄り添い、仕えることを意味する「侍(さむら)う」にあり、ダムもまた、地域の安全を影で支え、人々の暮らしを守り続ける「現代の侍」としての役割を担っています。今回、この侍の姿を巨大なダムに刻むことで、施設そのものが持つ「人を守る」という使命と、その運用に献身的に携わる人々の想いを広く周知することを目指します。

約750年前の侍の姿を直接見ることは叶いませんが、私たちは「現存する最古の記録」にその面影を見出しました。この活動を通して、地域の歴史的価値を可視化し、新たな観光資産として世界へ発信することで地域の活性化に貢献してまいります。

4月の完成に向け、公式SNS(X/Instagram)では制作過程をアーティスト視点で公開するほか、ダム洗浄体験やケルヒャー製品が当たるプレゼントキャンペーンも実施。清掃が芸術へと変わる瞬間を、ぜひ共に楽しみください。

ケルヒャー ジャパン公式X:<https://x.com/KarcherJapan>

ケルヒャー ジャパン公式Instagram:https://www.instagram.com/karcher_japan/

※天候および諸般の事情により、完成時期が当初の予定より順延となる場合がございます。

松田川ダムリバーズグラフィティプロジェクト『BRING BACK THE SAMURAI Powered by ケルヒャー』の概要

リバーズグラフィティプロジェクトは、ケルヒャーが文化貢献活動の一環としてグローバルに取り組んでいる活動です。高圧洗浄機のパイオニアとして世界的な信頼を築いてきたケルヒャーは、これまでニューヨークの自由の女神やベルリンのブランデンブルグ門、リオデジャネイロのキリスト像、広島平和記念公園のモニュメントなど、世界的に有名な建造物や彫像の洗浄・再生を文化貢献活動として支援してきました。

2026年最初のプロジェクト松田川ダムリバーズグラフィティプロジェクト『BRING BACK THE SAMURAI Powered by ケルヒャー』は、ケルヒャー ジャパン設立20周年の折、国内初の「リバーズ・グラフィティ」を披露した栃木県・松田川ダムに原点回帰。完成30周年を迎えた同地の壁面を再びキャンバスに、独自の洗浄技術で「侍」を描き出すことで、世界が認めた技術と日本の伝統が、時を超えて再び交差します。



「侍」に込めた想いと本取り組みの目的

本プロジェクトは、松田川ダムの完成30周年を祝したプロジェクトです。

採用する手法「リバーズ・グラフィティ」は、歳月の証である汚れ(パティナ)を削ぎ落とし、元の状態を復元させるというプロセス自体が時の流れを逆行する「旅」であり、歴史をテーマに描く上でこの上ない表現手段と我々は考えています。

モチーフデザインの制作を担うアーティストのクラウス・ダオヴェン氏は、作品を通じて「人間存在の根源」を探求し続けています。その想いは、足利の地に連綿と受け継がれてきた「節分鎧年越」の精神と重なり合いました。先祖を供養し、街を想い、鎧を纏う。そこに脈打つ不変の「人らしさ」を直感した私たちは、現存する最古の記録から「侍」の実像を写し出すことを決意しました。

約750年前の足利の地に端を発する侍の姿を現存する最古の記録から見出し、巨大なダムに蘇らせることで、地域の観光資産を力強くアピールし、新たな観光スポット化を目指します。



ケルヒャーならではの技術で描かれるリバースグラフィティ

本取り組みは、ケルヒャーが誇る高圧洗浄機の技術力を活かし、洗浄によるアートの数々を世界中のダムで文化貢献活動として展開しています。

「リバース・グラフィティ」とは、業務用の高圧洗浄技術を駆使し、蓄積した汚れを精密に除去することで、清掃面と非清掃面のコントラスト(陰影)により絵画を浮かび上がらせる手法です。洗剤や化学薬品を一切使用せず、水のみで洗浄を行うため、環境に極めて低い負荷でアートを創出できるのが大きな特長です。

世界を舞台に活躍する洗浄のエキスパートが再集結。ドイツより精鋭チームが到着！

今回のプロジェクトでは、ドイツ本社が誇るクリーニングスペシャリスト集団が日本の地で再集結します。洗浄・クリーニングのスペシャリストであるチームリーダーNick Heydenをはじめ、独自の手法で数々のリバースグラフィティを描いてきたアーティストのKlaus Dauven、洗浄作業を担当するロープテクニシャンのJens Kranholdや、アートの下書き作業にあたる測量担当の精鋭された6名のメンバーが揃います。

ドイツ国内で最も高いラップデダムのリバースグラフィティ プロジェクトなど、世界中の歴史的建造物やダムの本来の機能や美しさを回復し、維持していくためのクリーニングをしてきた彼ら。日本でのプロジェクト経験も豊富な「洗浄のプロフェッショナル」たちが、今回どのような手腕を見せるのか。その驚きの作業風景やメンバーの素顔は、公式SNSでも順次公開予定です。



公式SNSでは制作過程の発信やプレゼントキャンペーンも実施

4月の完成に向け、公式SNS(X/Instagram)では制作過程を洗浄スペシャリスト視点で公開する「#15日後に超巨大ダムアートを完成させるニック プロジェクト」ほか、ダム洗浄体験が当たる「#松田川超巨大ダムアート始動！ダムアート体験者メンバー募集！」キャンペーンも実施。ケルヒャー製品が当たるプレゼントキャンペーンなども今後予定しております。清掃がアートへと変わる瞬間を、ぜひ共にお楽しみください。

ケルヒャー ジャパン公式X:<https://x.com/KarcherJapan>

ケルヒャー ジャパン公式Instagram:https://www.instagram.com/karcher_japan/

松田川ダムについて

松田川は、栃木・群馬県境に位置する仙人ヶ岳(標高663m)に源を発し、足利市松田町内を南西に流下し、栗谷川、彦谷川を合流しながら同市大前町地先において一級河川渡良瀬川に合流する延長14.0km、流域面積32.7km²の一級河川です。

松田川ダムは、松田川総合開発事業の一環として計画されたもので、松田川沿川の洪水被害の軽減、既得取水の安定化、河川環境の保全、さらに足利市に対する上水道用水の確保を目的として、昭和56年度に実施計画調査に着手、昭和60年度に建設工事に着手、平成7年度に総事業費約135億円をもって完成した重力式コンクリート形式の多目的ダムです。

松田川ダムの目的

(1)洪水調節

松田川ダム地点の計画高水流量57m³/s(1/80)のうち55m³/sの洪水調節を行い、ダム下流松田川沿川地域の水害を防止します。

(2)流水の正常な機能の維持

ダム地点下流域の既得用水の補給を行うとともに、魚の保護や動植物の生態環境の保全及び河川景観上必要な流量を確保します。

(3)上水道用水の確保

足利市への水道用水として、ダム地点において5,100m³/日(0.06m³/s)の取水が可能となるよう用水を補給します。

※ニュースリリースに記載された内容は発表時の情報です。
予告なく変更する場合がありますので、ご了承ください。